



香美市森づくり構想

～森林の適正な管理と整備を進めるための方針～

令和4年3月

香美市

香美市未来の森づくり委員会

目次

第1章 香美市森づくり構想策定にあたって

第1節 策定の背景と目的	1
第2節 構想の位置づけ	2

第2章 香美市の概況と森林資源

第1節 香美市の概況	3
第2節 香美市の森林資源	5
第3節 香美市の森林を取り巻く担い手	12

第3章 香美市の目指す森林ビジョン

第1節 ビジョン1 森林づくり	14
第2節 ビジョン2 人づくり	15
第3節 ビジョン3 街づくり	16

資料編	17
-----	----

香美市未来の森づくり委員会名簿	20
-----------------	----

第1章 香美市森づくり構想策定にあたって

第1節 策定の背景と目的

香美市は市の総面積(53,786ha)のうち 88% (47,175ha)が森林です。

また、2018 年に林野庁が実施した航空レーザー測量によると、国有林を除いた森林の約 65%がスギ・ヒノキ等の人工林で、面積は約 21,500ha あります。

香美市では、これまで林業事業者による森林整備が進められてきました。特に中核を担う 2 つの森林組合により、急峻な地形の物部川上流域では優れた架線技術を用いた集材が行われ、中流域では全国に先駆けて林地の団地化に取り組み、高性能林業機械と列状間伐を組み合わせた効率的な作業システムによる施業が行われてきました。市としましても、高性能林業機械の導入や路網の整備等森林整備の推進に向けた支援に取り組んできました。また、木質資源の循環利用を進めるために、市産材を活用した住宅の建築・増改築の支援に取り組んできました。

しかしながら、近年短時間強雨の発生回数や長時間降雨が増加傾向にあり、豪雨災害が危惧されています。また、県内の大型製材工場や木質バイオマス発電所の整備による原木需要量の拡大に伴い、森林資源を余すことなく活用する取組が進んでいますが、まだ整備を必要としている森林資源も多く存在しています。さらに、市産材を活用した木材住宅支援を進める中で、市内木材産業活性化の観点からは効果が薄いという問題が浮かび上がりました。

香美市では令和元年度から未来の森づくり委員会を設置し、様々な課題について議論しながら、これらの課題への備えとして、更なる森林整備の促進や、身近で貴重な財産として香美市の森とそれらを取り巻く文化や環境を次世代に残していくことが重要と考えました。

そこで、香美市の第2次振興計画の6つの基本方針である「まちの形を創る」「みどりを保つ」「安らぎを守る」「賑わいを興す」「未来を拓く」「みんなで築く」に基づく施策を実現し、SDGs に合致する今後の香美市の森づくりの基本的な方針として、香美市森づくり構想を策定することとしました。

第2節 構想の位置づけ

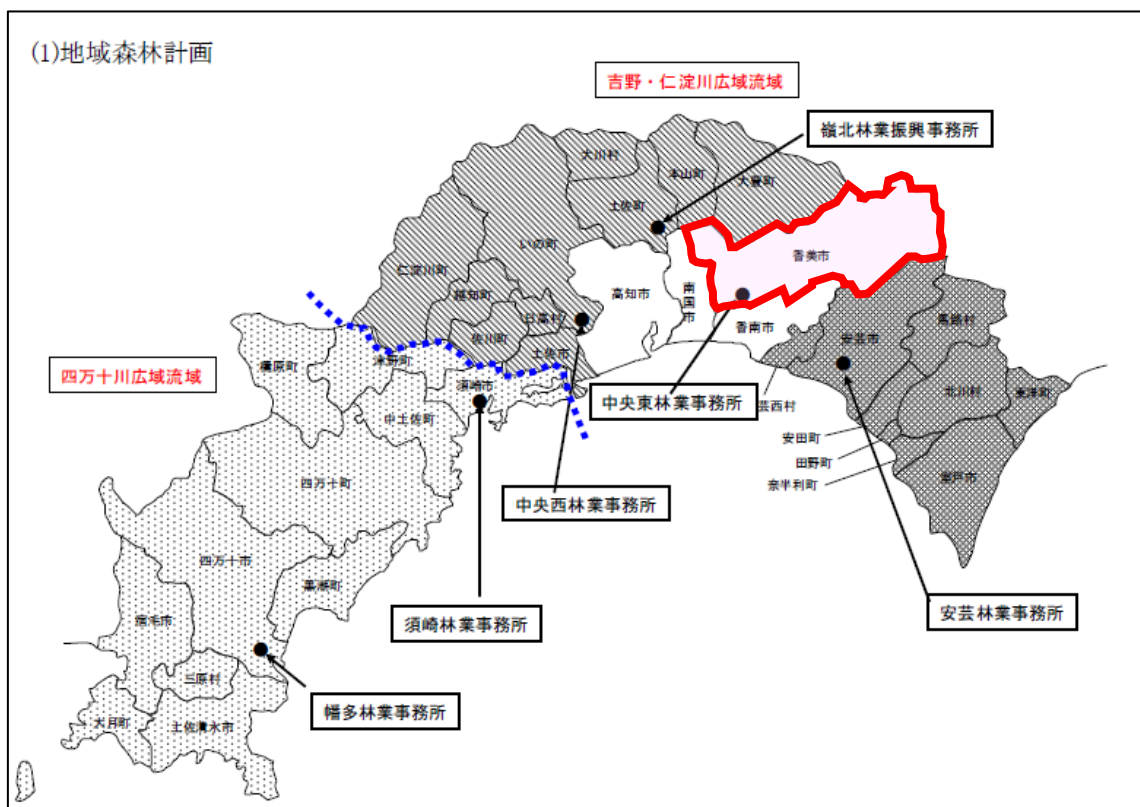
香美市では、森林法に基づく香美市森林整備計画を定めており、施業や森林整備の推進に係る基本方針を定めています。なお、高知県が策定する地域森林計画では、香美市は高知計画区に位置付けられ、高知県中央東林業事務所が所管する区域となります。(下図参照)

また、香美市の第2次振興計画では基本方針2「みどりを保つ」の『政策6 自然資源の保全と活用の推進』、基本方針4「賑わいを興す」の『政策14 農林業の振興』において森林関連の施策が定められています。(詳細は振興計画を参照)

その他、市の公共建築物等に係る市産材活用に関連するものとして、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律(平成22年法律第36号)」第9条第1項の規定に基づき、国が定めた公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針及び高知県産材利用推進方針に則して、香美市公共建築物等木材利用促進方針が定められています。さらに、木材住宅支援事業(香美 ingWOOD)については、香美市木材住宅支援事業委員会において制度の推進が議論されています。

森づくり構想は、これらの方針や制度と合致し、さらに補完、発展させるものと位置づけます。

<地域森林計画における香美市の位置づけ>



(高知県森林環境政策課資料から)

第2章 香美市の概況と森林資源

第1節 香美市の概況

<地理・気候など>

香美市は、物部川、国分川の源流域から高知平野に至る変化に富んだ市域を有し、東北部は1,000～1,800mの急峻な四国山地が広がり、山間部は秩父古生層からなり、市域を貫く物部川の源流域となっています。

気候は比較的温暖ですが、平野部から山間部の標高による寒暖差は大きく、高地では亜寒帯の植物もみられます。降水量は、山間部で多くなっており、森林資源の形成や農作物の育成に適した地域となっています。

市域の約9割を森林が占め、物部川上流域には天然林も残され、べっ海峡、轟の滝をはじめとする景観が広がり、アメゴ、アユ、カワセミ、ホタル等の多様な生物を抱える貴重な自然が残っています。

上流域から、剣山国定公園、奥物部県立自然公園、龍河洞県立自然公園などに指定される豊かな自然を有しています。

<人口>

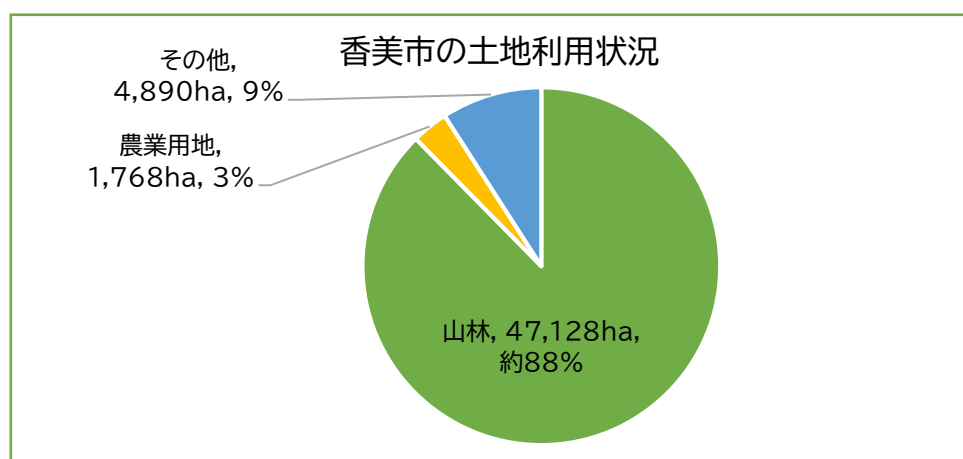
平成17年の国勢調査人口で30,257人であった香美市の人口は、平成27年の国勢調査人口では27,513人に減少しています。また、高齢者の比率は37.1%となっており、全国平均の26.6%を大きく上回る水準となっています。

<土地利用> (農林業センサス2015による)

香美市は、高知県の7.6%に及ぶ537.86km²の広い面積を有していますが、87.6%が森林となっており、可住地面積は平野部を中心に1割強となっています。

山間部では森林の7割を占める人工林を活用した林業や気温差を活かしたユズの生産が行われています。一方、平野部では温暖な気候を利用した稲作、ねぎ、ニラ、しょうがなどの農作物が生産されています。

物部川や支流域には棚田が発達し、集落が広く分布しています。平野部はまとまった農地と市街地となっています。市街地は高知中央広域都市圏に含まれ、市街化区域と市街化調整区域に線引きされ、計画的な開発が行われています。



<産業構造>

香美市の産業構造は、平成27年度の国勢調査等によると、次の表のとおりとなっています。

■産業別の就業人口分布（平成27年国勢調査）

区 分		就業人口			%
		男 性	女 性	計	
総 数		6,493	5,924	12,417	100.0
1 次	農業	1,129	989	2,118	17.1
	林業	137	22	159	1.3
	漁業	4	1	5	0.0
2 次	鉱業、採石業、砂利採取業	6	3	9	0.1
	建設業	740	106	846	6.8
	製造業	795	449	1,244	10.0
3 次	電気・ガス・熱供給・水道業	63	9	72	0.6
	情報通信業	60	30	90	0.7
	運輸業、郵便業	302	59	361	2.9
	卸売業、小売業	871	899	1,770	14.3
	金融業、保険業	51	112	163	1.3
	不動産業、物品賃貸業	54	35	89	0.7
	学術研究、専門・技術サービス業	180	103	283	2.3
	宿泊業、飲食サービス業	293	409	702	5.7
	生活関連サービス業、娯楽業	215	234	449	3.6
	教育、学習支援業	255	1,503	1,758	14.2
	医療、福祉	449	392	841	6.8
	複合サービス事業	137	112	249	2.0
	サービス業（ほかに分類されないもの）	358	182	540	4.3
	公務（ほかに分類されるものを除く）	286	193	479	3.9
	分類不能の産業	108	82	190	1.5

※各区分の比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため合計は100%になりません。

■ 経済活動別市町村内総生産 (単位：百万円)

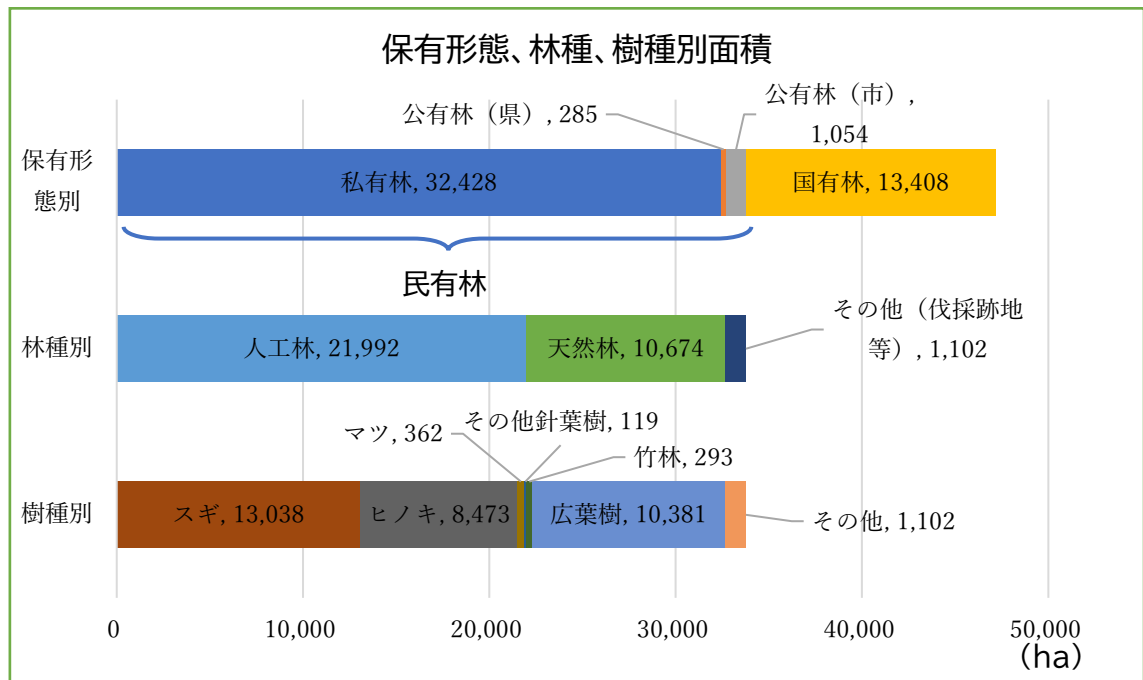
産業	年度				
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
第一次産業 計	3,793	3,928	4,390	4,743	5,061
一 農業	3,164	3,264	3,689	4,110	4,368
林業	620	654	689	623	684
水産業	9	10	12	10	9
第二次産業 計	14,876	16,516	15,151	17,885	20,838
二 鉱業	121	142	139	113	121
製造業	9,877	10,497	10,829	12,522	12,818
建設業	4,878	5,877	4,183	5,250	7,899
第三次産業 計	48,529	50,990	52,082	51,946	51,675
三 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	2,949	3,459	3,694	3,934	3,880
卸売・小売業	4,492	4,501	4,884	4,969	4,764
運輸・郵便業	1,673	1,757	1,718	1,723	1,780
宿泊・飲食サービス業	1,468	1,305	1,288	1,353	1,384
情報通信業	980	1,330	1,313	1,305	1,276
金融・保険業	1,696	1,740	1,814	1,727	1,715
不動産業	7,099	7,062	7,134	7,219	7,279
専門・科学技術、業務支援サービス業	1,679	2,157	2,198	2,256	2,246
公務	5,284	5,230	5,149	4,779	4,728
教育	6,417	7,406	7,442	7,450	7,400
保健衛生・社会事業	9,453	9,624	9,896	9,979	9,774
その他のサービス	5,339	5,419	5,552	5,252	5,449
輸入品に課される税・関税	857	1,217	1,187	1,074	1,226
(控除) 総資本形成に係る消費税	380	504	615	633	696
計 (総生産)	67,675	72,147	72,195	75,015	78,104

(出典：市町村経済統計書)

第2節 香美市の森林資源

<香美市の森林の現況> (主に香美市森林整備計画より)

香美市には約 47,128ha の森林があり、市の総面積の約 88%を占め、そのうち、33,766ha が民有林(国有林以外の公有林と私有林)です。また、民有林の内、76%が人工林、24%が天然林です。人工林のほぼ全域がスギ・ヒノキの人工林で、非常に成熟した森林資源が豊富な地域です。



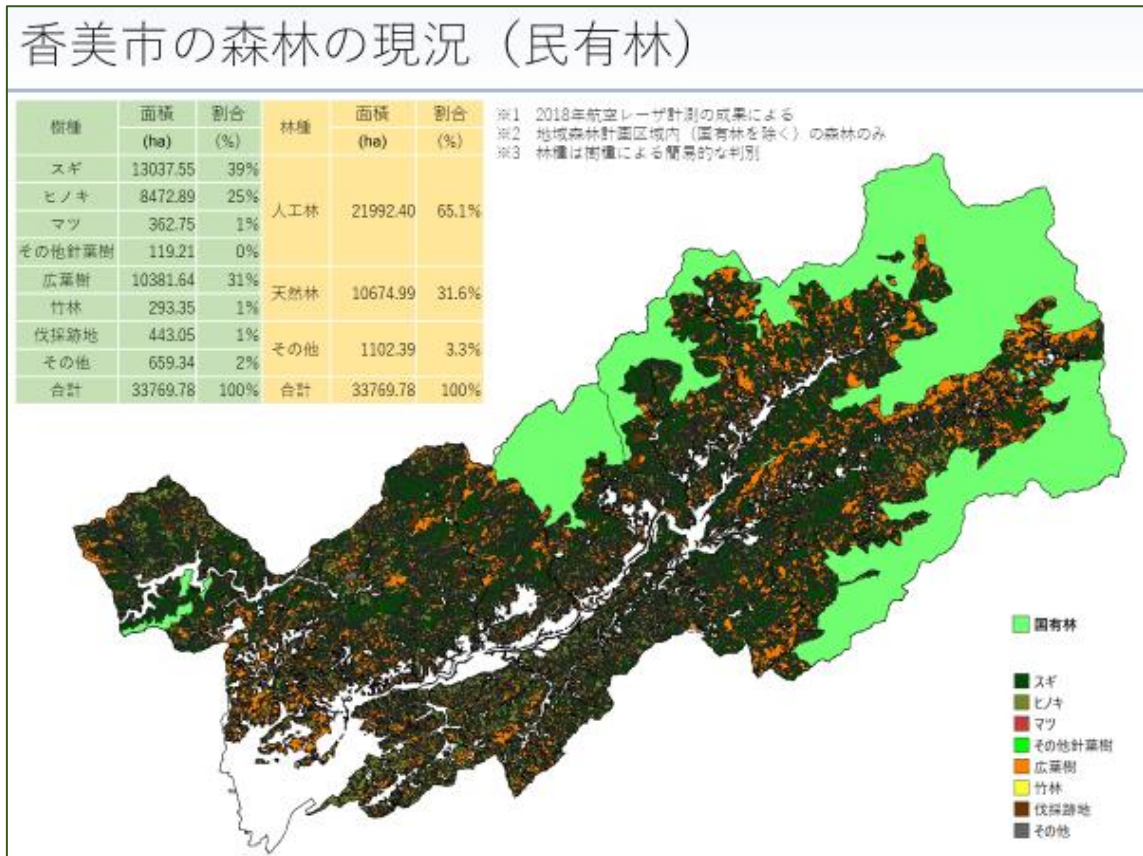
(林種別、樹種別面積は 2018 年航空レーザー測量成果による)

・林班(※)

市内の民有林の林班は全 502 林班となっており、最大林班面積は 208.5ha、最小林班面積は 4.3ha となっています。

(※)林班とは:字界、尾根や川などの天然地形又は道路などの地物を持って区画される地域森林計画の森林の区画の単位

・2018年航空レーザー測量による民有林の状況(※)



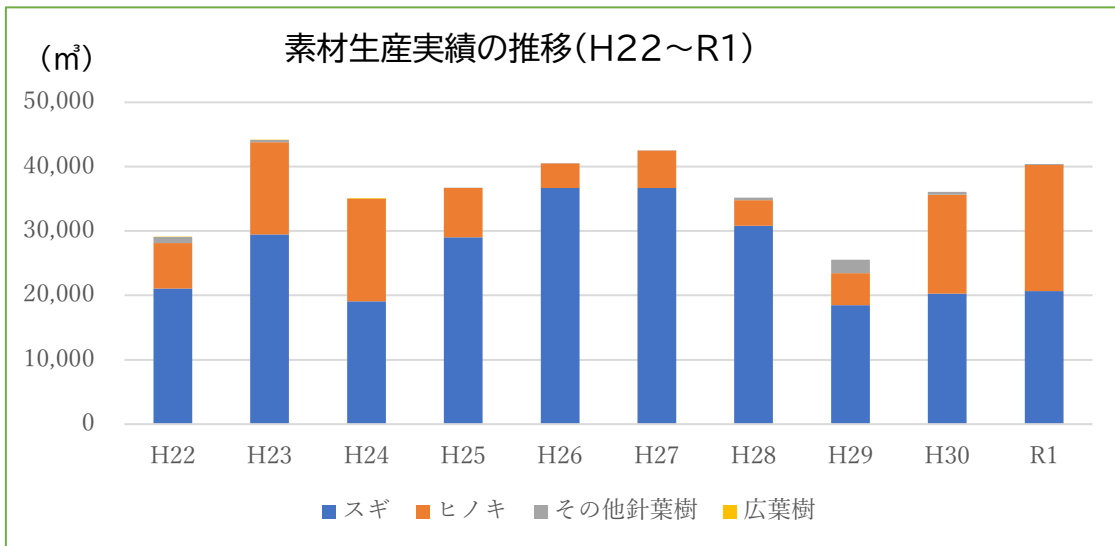
※ 航空レーザー測量による集計なので、森林整備計画の面積等と一致しない。また簡易的に樹種により人工林、天然林を区別している。



<木材生産と民有林資源の状況>

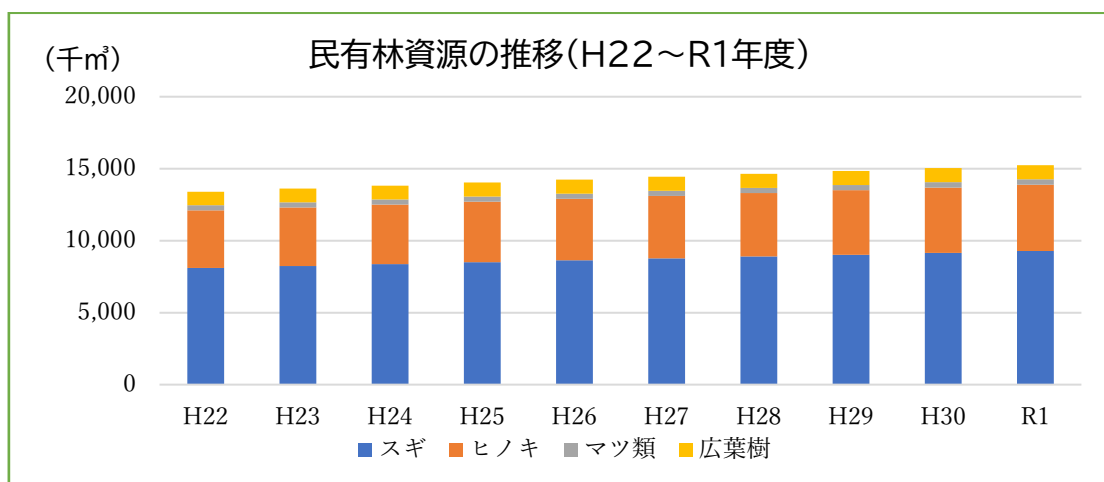
民有林での素材生産量(木質バイオマス分を除く)は、令和元年度実績でスギ 20,648 m³、ヒノキ 19,634 m³、その他針葉樹 113 m³、合計 40,395 m³となっています。(高知県木材産業振興課調べ)

令和元年度の素材生産量の樹種別割合はスギが 51.1%、ヒノキが 48.6%となっています。また、全体の生産量としては、各年のばらつきはありますが、年平均約 36,000 m³の素材生産量があります。



一方、民有林全体での資源量としては、令和元年度現在で、針葉樹 14,258,669 m³(スギ 9,286,452 m³、ヒノキ 4,601,782 m³、マツ類 370,435 m³)、広葉樹 983,460 m³、合計 15,242,129 m³の資源があると見込まれています。(高知県森づくり推進課調べ)

スギ、ヒノキ等の針葉樹、広葉樹共に増加傾向にあり、間伐等による出材よりも、森林の成長量が多いと推測されます。



<山地災害、シカによる食害など>

香美市の山林は急峻な地形が多く、また、年間の降水量も多いため、古くから地すべりや山腹の崩壊が頻発していました。最近では平成29年の台風による風倒木被害、平成30年7月豪雨による大規模な林道等の災害など、気候変動の影響によるものと思われる集中豪雨や台風による災害が多発しています。これらの災害により集落の孤立や水源地周辺の給水施設の損害等が発生し、住民生活にも影響を及ぼしています。このような被害の軽減のため、間伐等により適正な森林整備を推進し、森林の公益的機能(土砂災害防止機能)の増進を図ることが必要となっています。

また、香美市ではシカによる食害も深刻で、年間約1,900頭を捕獲し駆除していますが、シカの個体数は高止まりが続いています。人工造林(再造林)を実施する際にはシカ防護ネット、防獣チューブ等の獣害防止対策が必須となり、森林所有者の金銭的負担増に繋がっています。

このため、市でも再造林に対する独自の嵩上げ補助を実施して再造林の推進をしていますが、初期投資経費の負担感や後継者問題等により、県内の他地域と同様に再造林率は30%程度と低調となっており、将来の木材資源枯渇が懸念されています。

・平成30年7月豪雨災害の被災状況(市道須賀井線)



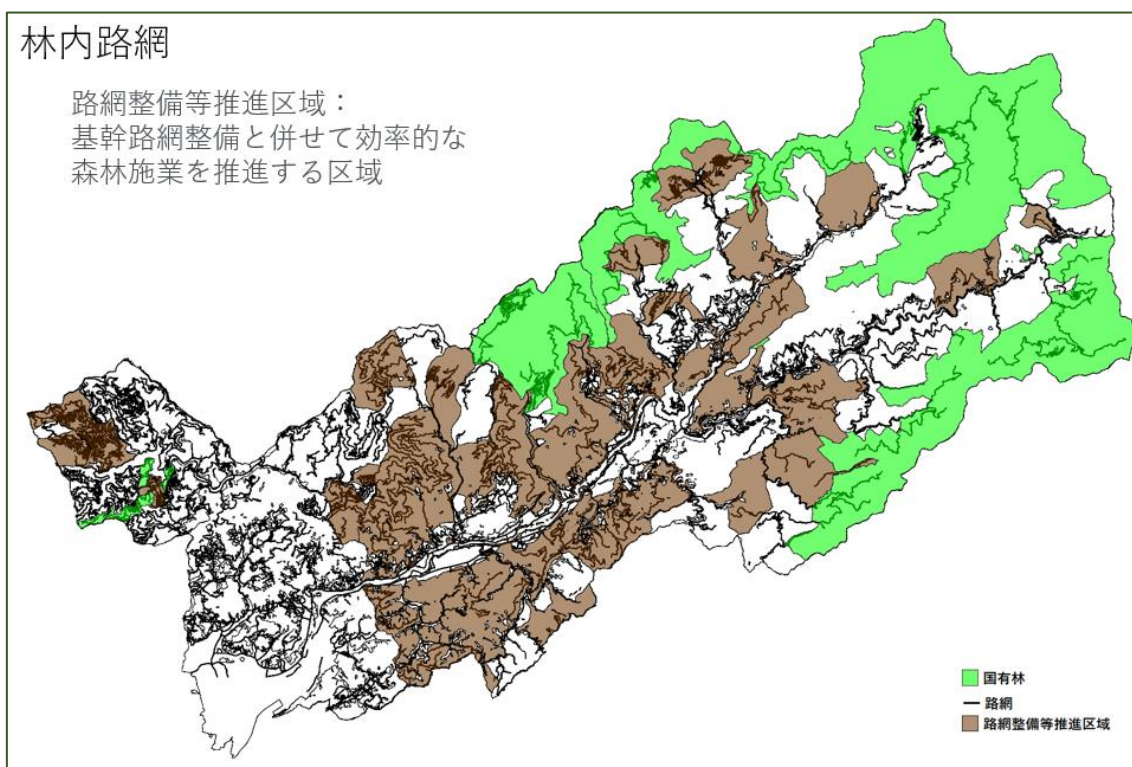
<林道及び作業道>

令和元年度末現在で、林道(高知県又は市が開設し、市が管理する公道で、原則として舗装済)は市内に総延長 245,722m整備されています。なお、各路線の詳細は香美市森林整備計画に記載しています。

作業道(森林所有者が林業事業体に委託するなどして私有林内に整備し、管理するもので、原則として未舗装)については私有林に総延長 643,239mが敷設されています。これらを合わせて考えると、林内路網密度は 34.1(m/ha)となっています。(高知県治山林道課調べ)

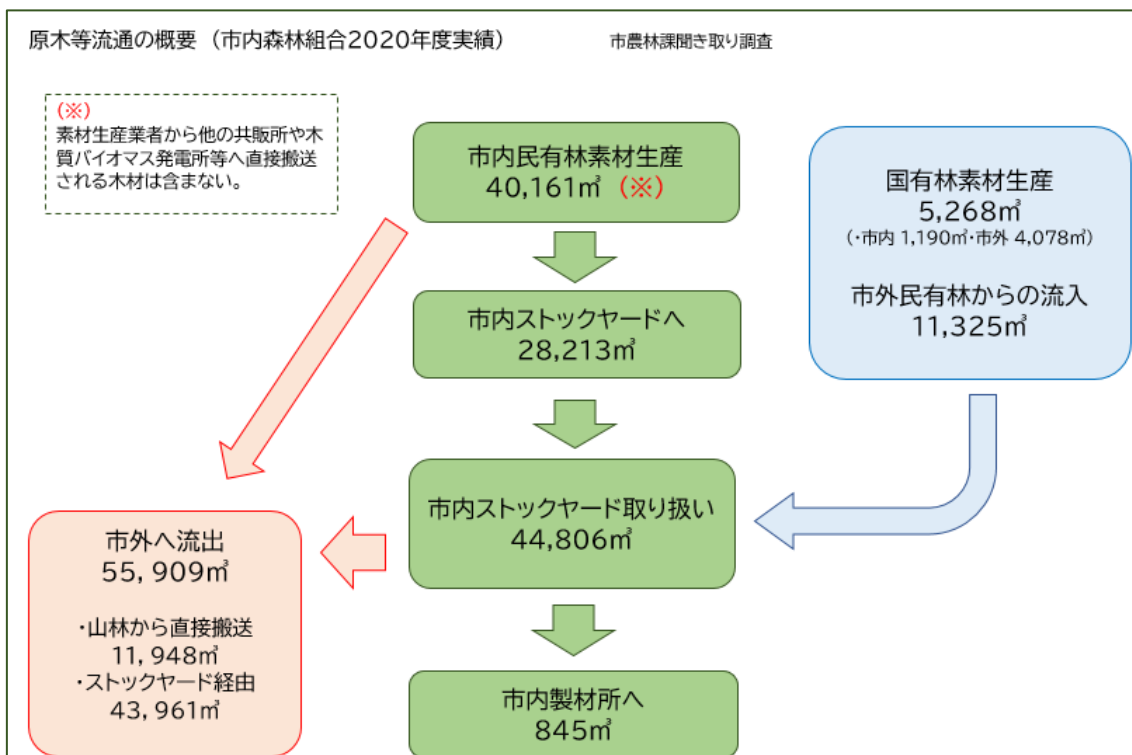
これは高知県全体の林内路網密度 33.8(m/ha)とほぼ同じですが、市内の森林で偏在しており、林道及び作業道の整備が不十分なため森林整備や木材生産ができない森林もかなり存在します。

また、近年では林業の機械化が進んでおり、高性能林業機械等を用いた間伐や主伐を行うため、森林所有者から委託された林業事業体によって幅員の広い作業道が整備されています。これらの作業道は林道等の公道ほど耐久性がない為、豪雨等による自然災害の影響を受けやすく、災害復旧や維持管理の負担増も課題となっています。これは市が管理する林道にも言えることですが、路網のさらなる整備と、延長が伸びることによる維持管理経費の増加への対応が大きな課題となっています。



<市産材原木等の流通について>

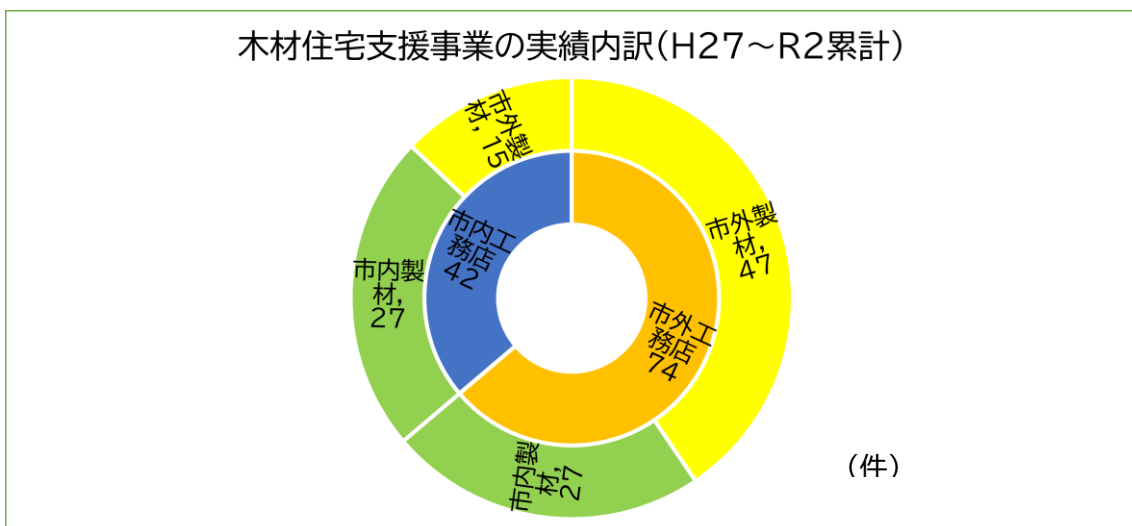
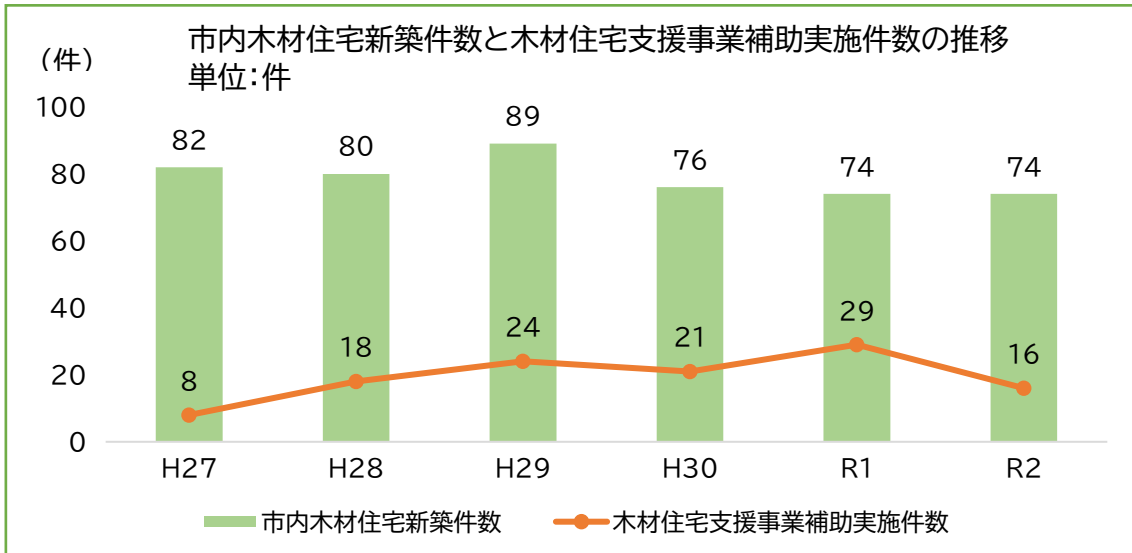
市内には繁藤ストックヤード及び物部森林ストックヤードの2つのストックヤードがあり、市産材の流通の拠点となっています。市内の民有林や国有林から搬出された木材は、木質バイオマス発電所や市外の共販所等へ直接搬送されるものを除き、いったん、これらのストックヤードに集められ、選木されたのち、近隣市町村の大型製材工場、木質バイオマス発電所等に出荷されますが、一部は市にかけられ、市内製材所(令和3年12月時点で4事業所が存在)や卸売りにも出荷され、住宅用建材や木製品の材料として流通しています。



<市産材と木材住宅について>

市内の木材住宅新築棟数は以下のとおり、80棟前後で推移しています。直近2年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、減少傾向となっています。

これに対し、市が実施している木材住宅支援事業(市産材を用いた住宅の新築費用等に補助金を交付する事業)における補助実施件数は、以下のとおりです。市内の木材住宅新築棟数に占める木材住宅支援事業補助実施件数は平均 25%となっています。市産材を活用した新築住宅の大半が補助事業を活用したと想定すると、市内木材住宅に市産材が活用されにくい状況が見られます。



また、木材住宅支援事業における市内製材所の請負率は 46%、市内工務店の請負率は 36%となっており、住宅の新築に市産材を使用する場合でも、製材所や施工業者は市外の事業者が請負先となることが多いことが伺えます。

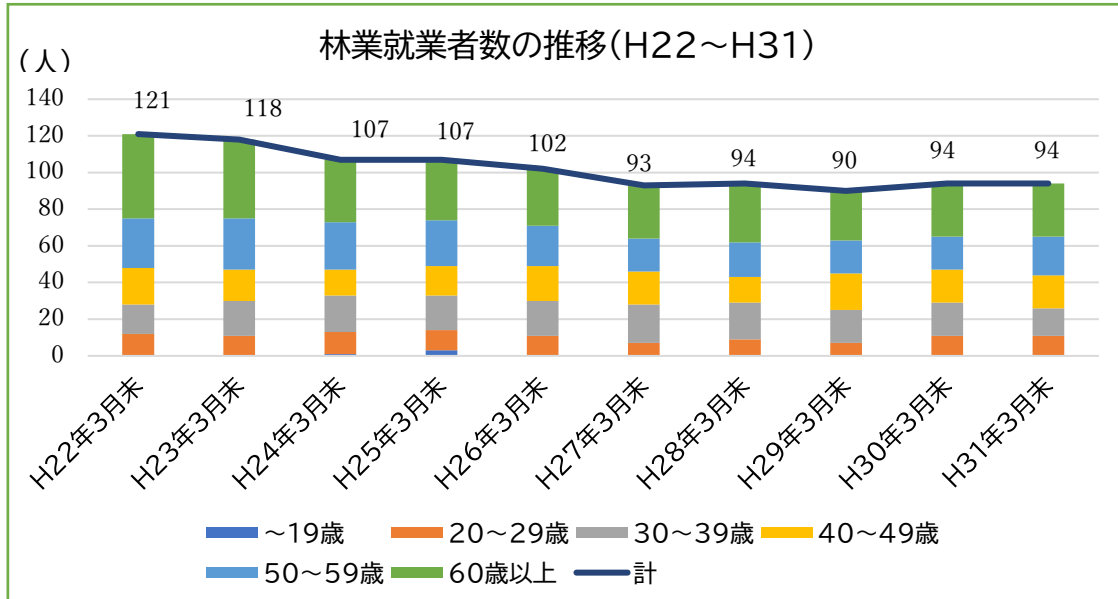
これは、施工業者の需要に対し、市内製材所が供給できる市産材の量が追いついていないことや、市内の施工業者が少ないこと、若年層はハウスメーカーなどの大手事業者に発注する傾向があることなど、複合的な理由でこのような結果になっていると推測されます。

事業の周知や補助メニューの改善を通じて、木造住宅における市産材の活用をさらに推進していく必要があります。

第3節 香美市の森林を取り巻く担い手

<林業就業者>

香美市の林業就業者数の推移は以下のとおりです。(高知県森づくり推進課調べ)



林業は、1次産業では農業に次ぐ就業人数となっており、市内に事業所を有する主な林業事業体としては、香美森林組合、物部森林組合の2森林組合があります。

10年間で林業就業者数は27名(約22%)減少していますが、直近では下げ止まりの傾向が見られます。ただし、就業者の約30%が60歳以上であり、担い手の確保及び技術や経験の継承を円滑に進めることが重要な課題となっています。森林資源の活用を進めるために、また森林整備の労働力を安定的に確保し、その技術を未来に繋げていくために、集約化した施業地確保やさらなる施業の効率化、安全確保、労働環境の改善等も課題といえます。

市としては、平成27年度から、市内林業事業体の新規雇用者の人件費に対して補助金を交付し、担い手の確保・育成を支援しています。

<製材所>

令和3年4月現在、市内には4つの製材所が営業をしています。人工乾燥設備やJAS材認定設備を持たない小規模な製材所が多く、経営者の高齢化も進んでおり、後継者の確保及び新しい製材業の検討等が課題となっています。

市としては、木材住宅支援事業において市内製材所を活用した場合の嵩上げ補助や、公共建築物の木質化推進などにより支援を実施しています。

市内製材所の様子



<木工製品関係>

令和3年4月現在、一般社団法人高知県木工製品工業連合協同組合に加盟している市内事業者は3社あり、それぞれの特色を生かした木製品を製作しています。

市としては、かみんぐBABY木のギフトプレゼント事業において、市内木工事業者1社を対象事業者に選定するなどして支援を実施しています。

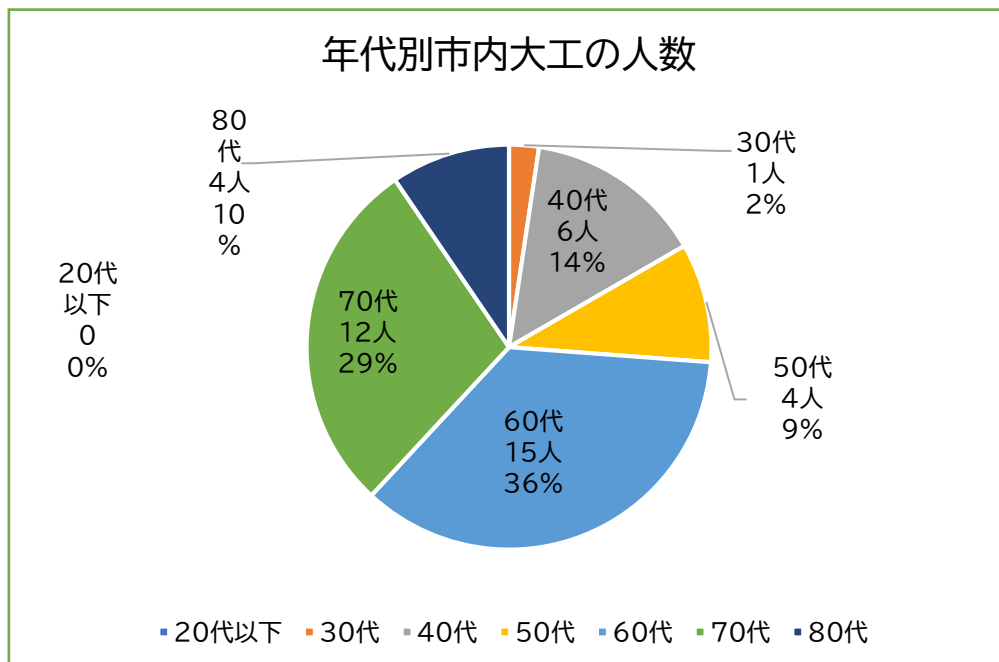
かみんぐ BABY 木のギフトの製品



<大工>

令和3年度に市農林課が高知県建設労働組合に実施した調査では、市内の大工は42名で、その内 35 歳未満は0名(下記グラフの 30 代 1 人は 35 歳以上)、70 歳以上が16名で、平均年齢が 64.8 歳という結果でした。高齢化及び担い手不足が顕著であり、災害発生後の住宅復旧等にも支障が出るのが懸念されます。

市としては、木材住宅支援事業において、市内工務店に発注した場合の嵩上げ補助や公共建築物の木質化推進などにより支援を実施しています。



第3章 香美市の目指す森林ビジョン

第1節 ビジョン1 森林づくり

今後の森林づくりの基本的な方針として、民間での林業経営に適した人工林については、林業のサイクル(造林⇒下刈り⇒間伐⇒主伐⇒再造林)を通して木材の生産をしながら CO₂吸収源としての森林を維持するための支援を実施することとします。具体的には、林業事業者や地域団体、森林所有者が実施する林業に対して、これまでも実施してきた再造林、間伐、作業道の整備等に対する支援を継続します。さらに、森林経営管理制度に基づく意向調査を実施し、森林環境譲与税を活用した森林境界の明確化を実施して施業地の集約化を推進します。

民間での木材生産を主軸とする林業経営には適さないと判断した森林(天然林等)においては、水源涵養、土砂災害防止、文化、保健レクリエーションといった公益的機能の発揮を目指して、森林環境譲与税を活用しながら、市が直接整備をすることを目指します。具体的には、対象となる森林を、関係機関や地域住民の意見などを聞きながら特定し、森林が有する機能の目的に応じた適切な整備を実施します。また、自然災害発生時における地域住民の生活維持、被災後の孤立集落の迅速な解消につながると期待される市道等公道周辺の森林整備についても、取り組みを始めます。

森林づくりビジョン	市の方針
木材生産を主軸とする林業経営に適した森林の整備推進 (スギ、ヒノキなどの人工林で地理的にも林業に適した山林)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間(林業事業者や地域団体)が行う間伐、作業道整備といった施業に対する支援 ・意向調査と森林境界明確化の実施による施業地の集約化の推進
木材生産を主軸とする林業経営に適さない森林の整備及び利活用の推進 (広葉樹が多い天然林、アクセス等が不利で林業経営の維持が困難な山林、人工林でも樹木の生育に適さない山林)	<ul style="list-style-type: none"> ・公益的機能の発揮を目的とした森林整備の実施 ・市民のライフラインを守るような森林整備の実施 ・市民などが多く訪れるような観光施設周辺での森林整備の検討



第2節 ビジョン2 人づくり

第1節で述べたような森林づくりを進めるためには、それらを担う人づくりも必要です。森林に求める機能は多岐にわたるようになったことから、市役所内での課を超えた連携体制を構築し、川上の林業事業者の担い手確保のみならず、川中、川下にある製材所や大工、木工製品事業者等の森林づくりに関連する事業者の担い手の確保や人材育成を支援することに努め、木材資源の循環利用を推進し、森林資源活用の知識や経験の継承を目指します。

また、次の世代に森林の重要性を伝承し、森林づくりや木材関連産業を担う人材を育てるため、木育事業も実施していきます。

具体的には、現在も実施している林業事業者への担い手対策支援事業の継続、製材所存続への支援の検討、森林環境譲与税を活用した新生児への市産材を用いた木のおもちゃプレゼント事業(かみんぐ BABY)、市内小中学生を対象とした木育学習プログラム(かみんぐ KIDS 木の学校)の開催、緑の募金を活用した体験学習イベントの実施を行っていきます。

人づくりビジョン	市の方針
林業事業者だけでなく、森林づくりに必要な幅広い担い手対策	<ul style="list-style-type: none"> ・林業事業者への担い手対策支援事業の継続 ・木材流通基盤強化に向けた支援検討
次世代への森林づくりができる環境の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・かみんぐ KIDS 木の学校の実施 ・かみんぐ BABY 木のギフトの実施 ・体験学習イベントの実施

令和2年度かみんぐ KIDS 木の学校プレ開催の様子



第3節 ビジョン3 街づくり

第2節までで述べたようなビジョンに加え、市自らが市産材の活用を推進し、香美市の森林に関連する産業を後押しするために、公共・非公共建築物の木質化に係る市産材活用についても支援等を実施して、振興計画のテーマでもある「進化する自然共生文化都市」にふさわしい木の香る街づくりを目指します。

具体的には、市が整備する公共建築物については、香美市公共建築物等木材利用促進方針に基づき、積極的に市産材を活用するため、高知県木材協会等と連携しながら市産材及び市内製材所の円滑な活用を支援し、財源面でも森林環境譲与税を活用して市産材活用部分に支援をします。

非公共の木造建築物のうち木造住宅については、現在実施している木材住宅支援事業の継続と改善を目指して、木材住宅支援事業委員会で検討をしていきます。また、公共性の高い非住宅建築物の木質化支援について検討していきます。その他、市の備品調達においても木質化が可能なものは市産材の活用を検討します。

市民が自ら主体的に参画できる緑の募金を用いた緑化運動についても継続し、緑あふれ木の香る街づくりを目指します。

街づくりビジョン	市の方針
公共・非公共建築、備品の木質化等を通じて木の香る街づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・公共建築への市産材活用についての積極的支援 ・市産材を活用した木材住宅支援事業の改善及び継続 ・備品の木質化推進 ・緑化運動の継続

市産材で作成した香美市立図書館香北分館の備品



資料編

1. 香美市の土地利用 (出典:香美市第2次振興計画)

■土地利用の状況

区分	面積(ha)	構成比(%)
農業用地	1,768	3.29
山林	47,128	87.62
原野	9	0.02
水面・河川・水路	1,101	2.05
道路	985	1.83
宅地	551	1.02
その他	2,244	4.17
総面積	53,786	100

2. 保有形態別森林面積 (出典:香美市森林整備計画)

保有形態	総面積		立木地			人工林率	
	面積(A)	比率	計	人工林(B)	天然林	(B/A)	
	ha	%	ha	ha	ha	%	
総数	47,174.61	100.0	46,013.82	31,366	14,648	66.5	
国有林	13,407.92 (68.63)	28.4	12,735.32	5,952.68	6,782.64	44.4	
公有林	計	1,338.85	2.8	1,336.29	1,099.97	236.32	82.2
	県有林	284.62 (111.02)	0.6	282.42	217.59	64.83	76.4
	市有林	1,054.23	2.2	1,053.87	882.38	171.49	83.7
	財産区有林	0.00	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0
私有林	32,427.84	68.7	31,942.21	24,312.99	7,629.22	75.0	

資料:高知県林業振興・環境部、高知国有林の地域別の森林計画書(高知森林計画区)、森林簿

3. 素材生産実績の推移（高知県木材産業振興課調べ）

素材生産実績の推移（H22～R1） ※木質バイオマス除く					単位：m ³
年次	スギ	ヒノキ	その他針葉樹	広葉樹	計
H22	21,084	7,066	918	31	29,099
H23	29,466	14,309	350	67	44,192
H24	19,063	15,922	4	93	35,082
H25	29,009	7,657	17	0	36,683
H26	36,666	3,859	9	0	40,534
H27	36,673	5,844	15	0	42,532
H28	30,836	3,947	394	0	35,177
H29	18,496	4,973	2,088	0	25,557
H30	20,252	15,409	423	0	36,084
R1	20,648	19,634	113	0	40,395

4. 民有林資源の推移（高知県森づくり推進課調べ）

単位：m ³					
年度	スギ	ヒノキ	マツ類	針葉樹計	広葉樹
H22	8,094,931	4,007,769	350,935	12,453,635	950,513
H23	8,230,506	4,076,217	353,663	12,660,389	955,006
H24	8,365,039	4,144,919	356,277	12,866,235	959,401
H25	8,499,574	4,212,454	358,654	13,070,682	963,560
H26	8,631,888	4,279,644	361,004	13,272,536	967,841
H27	8,764,692	4,345,732	363,074	13,473,498	971,317
H28	8,896,366	4,411,250	365,091	13,672,707	975,232
H29	9,027,024	4,474,989	367,029	13,869,042	976,799
H30	9,158,049	4,538,906	368,740	14,065,695	980,129
R1	9,286,452	4,601,782	370,435	14,258,669	983,460

5. 市内木材住宅新築件数と木材住宅支援事業補助実施件数の推移(香美市農林課調べ)

年度	市内木材住宅新築件数	木材住宅支援事業補助実施件数	補助事業活用割合
H27	82	8	10%
H28	80	18	23%
H29	89	24	27%
H30	76	21	28%
R1	74	29	39%
R2	74	16	22%

6. 木材住宅支援事業の実績内訳

年度	交付実績件数	実績の内訳 (件数)			
		市内製材	市外製材	市内製材	市外製材
		市内工務店	市内工務店	市外工務店	市外工務店
H27	8	2	1	1	4
H28	18	2	4	6	6
H29	24	8	4	4	8
H30	21	7	1	6	7
R1	29	6	2	7	14
R2	16	2	3	3	8
計	116	27	15	27	47

7. 林業就業者の推移(高知県森づくり推進課調べ)

単位:人

年月時点	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上	計
H22年3月末	0	12	16	20	27	46	121
H23年3月末	0	11	19	17	28	43	118
H24年3月末	1	12	20	14	26	34	107
H25年3月末	3	11	19	16	25	33	107
H26年3月末	0	11	19	19	22	31	102
H27年3月末	0	7	21	18	18	29	93
H28年3月末	0	9	20	14	19	32	94
H29年3月末	0	7	18	20	18	27	90
H30年3月末	0	11	18	18	18	29	94
H31年3月末	0	11	15	18	21	29	94

香美市未来の森づくり委員会名簿

(敬称略)

氏名	所属等	委員会での役割
松本 美香	高知大学	会長
徳増 秀敏	香美森林組合	森づくり部会長
井本 憲仁	物部森林組合	森づくり部会
山崎 真	高知県立森林技術センター	森づくり部会
杉浦 俊孝	物部森林組合	市産材活用部会長
小松 隆至	香美森林組合	市産材活用部会
北村 政数	北村製材所	市産材活用部会
森本 道成	森本建築	担い手対策部会長
森安 正	農林業	担い手対策部会
山本 直子	聖建築研究所	教育・普及PR部会長
井津 葉子	高知放送	教育・普及PR部会
笹岡 洋一	香美森林組合	教育・普及PR部会
笹岡 高志	木に親しみ流域を結ぶ会	調査・イベント
香美市農林課林政班		事務局



香美市森づくり構想

令和4年3月

【策定協力】

香美市未来の森づくり委員会

【編集・発行】

香美市農林課林政班

〒782-8501

高知県香美市土佐山田町宝町1丁目2番1号

電話 0887-52-9283

公式ホームページ <https://www.city.kami.lg.jp/soshiki/31-1/>